

優秀賞

## 卵焼き

岡山県 就実中学校三年 本正 暖奈

私は母の作る卵焼きが大好きです。ほとんど焦げ目が無く優しい甘みと絶妙な塩加減。卵焼きは各家庭の味がありますが、どこの卵焼きよりも母の作る卵焼きが私の中では一番です。中学に進学する時、「お弁当には卵焼きを入れてね。」とお願いでから、ほぼ毎日、大好きな卵焼きが入っています。

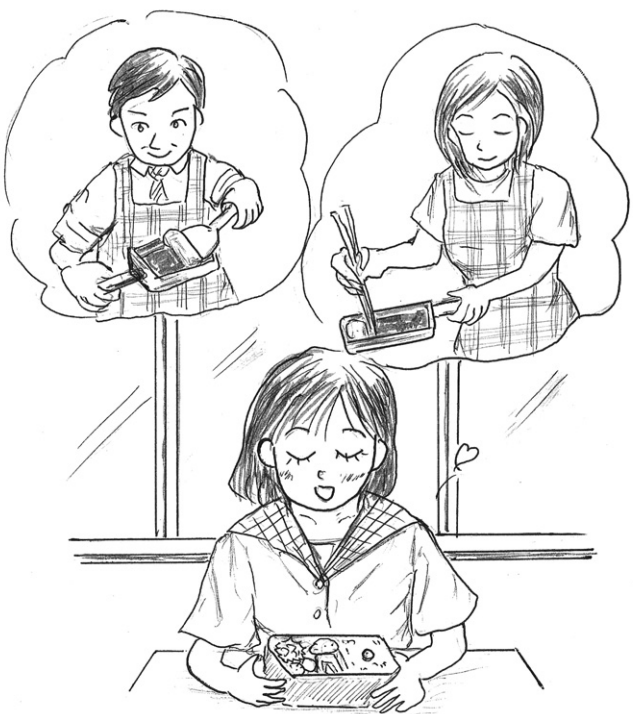
ある日、母の身体が生死にかかわる重大な病魔に侵されていることが分かりました。入院が近づくにつれ、私や父の前では何事もなかったかのように過ごしていた母ですが、ボーっとしたり泣いていたり、だんだんと笑顔が少なくなっていました。母が死ぬかもしれないと考えたくもないけれど、死んでしまったらどうしようという不安と恐怖で、本当は少しでも元気づけてあげたかったけど何もしてあげられませんでした。

を思い焼いてくれる、気持ちのこもった卵焼きだったからだと思っています。

六月の終わり、いつものように父の作ってくれたお弁当の卵焼きを一口食べると、一瞬母の卵焼きの味がしました。形は少し不格好だったけど、今まで作ってくれた卵焼きの中で、一番母の卵焼きに近い味がありました。その日の学校帰り、母のお見舞いに行き、父の作った不格好な卵焼きの話しながら談笑しました。

私は母の卵焼きが大好きです。そして今は父の作る気持ちのたっぷりこもった不格好な卵焼きも同じくらい大好きです。

七月に入り、母は無事退院し、自宅療養できるようになりました。もう少し元気になったら、私も卵焼きのレシピを教わり、二人に食べさせてあげたいと思います。



そんな時でも、母の作る私のお弁当にはいつもと変わらず卵焼きが入っていました。六月の初め、母は入院しました。十四時間以上もかかりましたが手術は成功しました。しかし成功はしたものの、薬が効いて眠っているか、目が覚めていても痛みを耐えている母が心配で、学校に行っても、勉強をしても何か落ちつきませんでした。

母が入院している間、普段あまり料理をしない父が作ってくれたお弁当。蓋を開けると、母が作ってくれるものとは少し雰囲気の違いも多い。でも私が卵焼きを好きなのを知っている父は、毎日卵焼きを入れてくれました。母が入院する前にレシピを聞き、何度か練習していた父の作る卵焼きは、焦げていたり、ゆがんでいたりと、毎日味の違う不思議な卵焼きです。でもなぜか一口食べると心が落ちつくような気持ちになります。それはきっと、私の事